主催企画シンポジウム

2024 年 9 月 21 日（土）　11：00 ～ 12：15
場所：認定こども園八戸文化幼稚園 アトリウム

絵本から広がる世界

コーディネーター：仲本美央（白梅学園大学・同大学院　教授）
話題提供 1：一戸盟子（福音館書店月刊誌編集部長）
話題提供 2：油川育子（認定こども園八戸文化幼稚園園長）

【企画主旨】

第 20 回子ども学会議のテーマに掲げられた「絵本から社会を変える」にもあるように、現代の地域社会では絵本を通じて人や場、そしてそこで生み出される活動からさまざまな社会変化が与えられ、豊かな環境が広がっています。また、それは、家庭や保育現場など子どもが育つ環境への影響だけではなく、さまざまな年代やあらゆる立場の人々へとつながっていく状況があるものです。それほどまでに、社会の中で絵本が活用される理由の一つには、絵本によって社会に培われていく多くの力を人々が実感していることにあるのではないでしょうか。

本シンポジウムでは、長年に渡り素晴らしい絵本の数々を世に送り出してきた編集者であるシンポジストからこれまでその仕事に携わってきた中で捉えてきた絵本から影響を与えられていく社会の変遷と現状課題に関する話題提供をしていただきます。さらに、子どもの成長・発達を支え、導く保育現場において絵本を活用した実践を展開してきた園長であるシンポジストから絵本によって子どもたちと保護者はどのような影響を与えられていると実感しているのかについてさまざまなエピソードを踏まえながら話題提供していただきます。

それらを踏まえて、今後の社会においてより豊かな絵本環境の拡充や構築についてフロアーの皆様と共に討論し、絵本から広がる豊かな世界をどのように地域社会の中で守り続け、そしてどのような方向性へと発展させていくのがよいのかを展望していきたいと考えています。

【話題提供 1】福音館書店　一戸盟子

題目「絵本は楽しむもの・楽しみながら子どもの心を育む」

絵本にまだ慣れていない赤ちゃんは、絵本をなめたりかじったりします。絵本という存在がわからないからです。そうした赤ちゃんも、だんだんに絵本に慣れてくると、絵本をひらくと、読んでくれる大人が面白いお話を聞かせてくれるのだとわかり、絵本を楽しみ始めます。赤ちゃんから年少児、年中児、年長児と成長するにつれ、その年代にふさわしい絵本を読んであげることで、子どもの興味の範囲を広げ、感性を豊かにし、子どもの想像力を育むことにつながります。

そのときに、大事なのは、「絵本を楽しむ」ということです。楽しいからこそ、お話の世界に夢中になり、主人公に共感しながら困難をのりこえ、深い満足感を得るのです。「千冊絵本を読まなくてはならないと聞き、次から次へと子どもに絵本を読んであげているが楽しくない。子どもも楽しんでいない」という悲痛な悩みを保護者から聞いたことがありますが、冊数を競って義務感で読んでいては苦しくなるのは当然です。大人が楽しく読んであげたら、子どもも楽しみます。楽しみながら、子どもの感性や想像力が培われ、子どもの心が育まれていくのです。

【話題提供２】　認定こども園八戸文化幼稚園園長　油川育子

題目「絵本の先にあるものは何か」　～社会を変えられるか～

2017 年３月に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂（改定）され、「非認知能力」の重要性が提唱されました。乳幼児期にその力の種を子どもたちの心にと願い、「環境」を通して行うことを基本とする幼児教育の特性の具現化を目指し、到達したところが「絵本環境」でした。このことを受け、本園ではその翌年に小さな絵本図書館「えほんのおうち」を増築し、その後「絵本専門士」を配置し、ハード面とソフト面共に環境を整えてまいりました。保育者と共に楽しむ絵本保育活動や親子で共に創り出す絵本の時間を通し、子どもたちを中心に絵本の世界を共有することを大切にしてきました。子どもたちにとって絵本との出会いは、生きる糧となり生涯支え続け、今の社会問題である教育、環境、貧困などを解決へと繋げてくれる最高の支援者になることと、絵本の楽しさを伝えられる機会を創出していくことが使命であると認識しています。

令和５年４月に施行された「こども基本法」の目的と絵本の役割は、「すべての子どもたちが健やかに成長し、将来にわたって幸せな生活を送ること」を目指したものであり共通しています。だれもが生きている喜びを実感できる社会の実現のために「絵本の先にあるものは何か」について、皆様と共に考える機会としたいと願っております。